

第6次鹿沼市総合計画前期基本計画に係る
パブリック・コメントとその回答

1 件目

意 見	回 答
<p>1 人づくりをとおしたコミュニティの形成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ビジョンでは、「学校を人づくりの拠点とした地域コミュニティづくり」をめざしています。従来地域の公民館や出張所（コミュニティセンター）等が担ってきた地域のコミュニティづくりについて、「学校」を拠点に行うとしていますが、本当にできますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来地域の公民館や出張所（コミュニティセンター）等が担ってきた地域のコミュニティづくりを学校が全てを包含して実施するということではありません。学校に人が集まる時に、積極的に学校が対応するという意味で、「学校を人づくりの拠点」にするという表現をしております。
<ul style="list-style-type: none"> ・ むしろ、現実的にはコミュニティセンター等において地域のアドバイザー、地域住民パートナーの不在解消を望みます。地域密着で動けるパートナーが欲しいのです。（コミュニティセンターの充実）そして学校とも連携するべきと思うのです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民自治と協働のまちづくりを基本理念とする「自治基本条例」の制定を進めています。この条例では、地域の課題に対して地域で解決していくための市民活動を、市がサポートすることが位置づけられています。 ・ 各地区のコミュニティセンターを中心に、地域内のコミュニティ事業の推進や各種団体等の活動支援のほか、地域のアドバイザー役として、地域の課題や相談、活動のコーディネートなどを行ない、より一層地域を巻き込んだ地域づくりができればと考えております。
<p>2 危機管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この計画では、防災対策のところ「安全安心な・・・」の掲載がありますが、昨年は、未曾有の東日本大震災あり、15号台風の被災ありで、自然災害が凄まじい年だったと思います。 ・ つまり、今後も必要であろう放射能対策、除染対策と洪水発生時の危機管理について、「人がすんでみたくなるまちづくり」において分けて掲載せずに、危機管理について特だしたほうが良いのではと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご意見を踏まえ、主要施策に「危機管理対策」を追加するとともに、その単位施策において「危機管理体制の充実」を掲げるよう変更いたします。 ・ 具体的な事業としましては、「地域防災計画の見直し」や「放射能汚染対策」などを位置付け、災害発生時等の危機管理対策を一元的に掲載することといたしました。

<ul style="list-style-type: none"> 通学路となっている県道の安全対策工事（と聞いてた）が、思川右岸の旧町民プール前の県道において行われましたが、洪水が簡単にあふれ出すばかりか、濁流が深程地域内への浸水となった原因となったと囁かれています。いま、洪水が発生したら、学校から避難できません。帰れません。行政の防災対策に学校や教育委員会の危機管理、回避の考え方も反映されることを期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> 本市防災の基本となる地域防災計画は、学校など教育施設も含めた計画であり、その役割等については今後の計画見直しの中でも今までどおり盛り込まれることとなります。 また、本基本計画では新たに「学校における防災体制の充実」を安全安心な学校作りの項目の中に位置付け推進していきます。
<ul style="list-style-type: none"> また、ゲリラ豪雨や災害発生時に地域では地元の市職員が本庁に招集されていて不在となり、遠くからコミセン所長だけがやってくるのが現状です。情報や対応が遅れがちだと感じています。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の応急活動体制は、地震の震度や気象注意報・警報などの状況に応じて職員を勤務場所に動員して組織的に取組むことを基本としていますが、地域の被害状況によっては、初動時において各部からコミュニティセンターへ応援職員を配置することとしています。
<p>3 「人がすんでみたくなるまちづくり」についての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 主役は「市民」なのに。どこかの市長がいう「住んでよかった」あるいは「人が安心して住み続ける」がよかったと思います。計画の内容的にみても。ひとが住んでみたくするためには・・・なにをどうするという計画なのでしょう？いまさらだとも思いますけれど。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標4の「人が住みたくなるまちをつくる」においては、地球環境問題に端を発した循環型社会への対応やゴミ処理等の生活環境整備、少子高齢化に対応する道路整備や公共交通機能の充実などの都市基盤の整備、また、豊かな森林資源を背景とした自然環境の保全などを中心に事業を体系付けております。 「住みたくなる」とは、本市が持続的な発展を目指し、地方の時代と呼ばれるなかで、計画に位置付けた諸施策を展開し、内外にPRすることにより、「これからも住み続けたい、住んでみたい」と思っただけのような魅力あるまちを目指す意味合いから、そのような希望を持った目標名としました。

2 件目

意 見	回 答
<p>1) 高齢化社会に対応する「協働のまちづくり」として地域事業者、たとえばヤクルト販売店や新聞販売店、その他NPOや地域の老人会とタイアップして高齢者や障害者の見守りを強化する計画（いきいきかめま長寿計画か？）</p> <p>（別紙・ヤクルト販売店とタイアップした高齢者見守り強化策 実施中） 各自治会協議会が独自に資金を出し合って立ち上げる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしの高齢者等が安心して暮らせる地域社会づくりのため、民生委員児童委員やシニアライフみまもり隊による、訪問による見守り活動を全地区で実施しているところではありますが、今後更に進む超高齢社会に対応するためには、ご意見のように民間事業者やNPO等、様々な機関と協働による地域福祉の推進を図って行く必要があると考えております。 ・現在、保健福祉部では、『心がふれ合い、かよい合う地域。安心して暮らせるまち』を基本理念とした地域福祉計画及び福祉諸計画を策定しております。平成24年度に策定する地域福祉活動計画の中で地域の実情に応じた、より具体的な取り組みとして検討してまいります。
<p>2) 東部台地域のまちづくりの目標として環境や防災、子育てに配慮した安全・安心な「まちづくり」は住宅密集地域である幸町1丁目に広場公園を設け防災の緊急避難と子どもたちが安全で安心して遊べる広場、また、高齢者は外で動けることの生きがいを感じます。その為にも「広場公園」の設置が必要です。</p> <p>平成23年度の市長座談会に再再度、幸町1丁目に「広場公園」を造っていただきたくお願いし、自治会一同再々要望しました。</p> <p>市からの回答は地域住民の安らぎの場、防災活動拠点として広場公園が必要なことは理解しているが多大な費用を要するため、今般の財政状況では早急な対応は難しいとのことでした。</p> <p>私達、自治会一同は市の財政逼迫を充分理解しておりますが、第6次総合計画前期の中で実現して頂きたいと要望いたします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幸町1丁目の「広場公園」の設置につきましては、本計画の基本目標4 “人が住みたくなるまちをつくる”の基本施策「2 安全で快適な生活環境の構築」の項目の中に、「幸町街区公園の整備」を位置付けており、計画期間内に整備することといたしました。

3) 東部台地区通学路のスクールゾーン化とグリーンベルト設定を推進する。

学童の通学時間と通勤時間が重なり幸町1・2丁目と緑町1・2・3丁目通学路は非常に危険地帯です。7時～8時のスクールゾーン化、車速30km制限としていただきたい。

学童の登校はスクールゾーンの設定と歩行者用グリーンベルトの設定を進めて頂くことで安心感がまします。因みにグリーンベルトは50cm～60cmの確保をお願いします。現在、JR茂呂踏切から東部台コミセン道路にグリーンベルトが設置されています。学童に限らず多くの住民から少しは安全になりました、と好評です。

子供が交通事故に遭ってからでは遅すぎます。交通事故は被害者も加害者も不幸です。

・スクールゾーンの設定には、地域住民の同意が必要不可欠でありますので、自治会等で協議の上、合意形成が整った段階で、鹿沼警察署へ要望してまいります。速度規制につきましても、鹿沼警察署への要望案件となりますが、市といたしましては、ドライバーへの注意喚起の「注意看板」等の設置などの安全対策を検討してまいります。